



## 第 1200 例会報告

### 会長挨拶

会長 長崎政直

#### セブ島支援報告

12日から16日、赤羽、溝口、渡辺、西澤会員と私、5名で、セブ島支援に行ってきました。今回の使命は、「クリーン・ウォータープロジェクト関係、デイ・ケア・センター支援、回収古着の配布、今後のセブ島での国際奉仕を考える」でした。

クリーンウォーター関係では①RI 提出の中間報告書 (progress report)の終了確認、②RI 提出の最終報告書 (final report)の促進要請、③掘削された15の井戸の現地確認、次にアリタさんのデイ・ケア・センターへの援助金の伝達及び授業参観、今後のセブ島支援関係では①エレメンタリー・スクール訪問、学校長より今後の支援についての聞き取り調査②NGO 法人プルメリア (現地代表者 日本人・浜野氏及びスタッフ)との懇談、回収古着の配布では、ガダルーペ RC、デイ・ケア・センターへの委託及び井戸所在地のスクワーター (貧民エリア)での子供達への配布等を行ってきました。おまけに、セブ市庁舎訪問、セブ市長表敬訪問もいたしました。

今回は、過密なスケジュールでしたが、ほぼ、目的は、果たせたように思っています。詳細な報告は、後日、国際奉仕委員会よりなされると思います。

今回の訪問でも、セブ島に関して、いろいろな発見がありました。とりあえず、その一つ、セブにおける英語教育について、お話しします。

公用語でもある英語ですから、小学校入学以前から、その学習が始まっています。日常生活習慣を教えるデイ・ケア・センターでも英語を教えていました。また、設置された井戸の一つで現地確認をおこなったティサ・エレメンタリー・スクールでは、丁度、下校時の訪問で、生徒が集会広場に集まり、下校のセレモニー国歌が歌われ、国旗が降ろされ、校長先生が英語でお話しをし、それから私たちが紹介され、挨拶を要請されました。溝口先生にお願いいたしました。先生は、英語

平成 22 年 11 月 18 日(木) 晴れ

で、日本が、ここまで成長発展できたその基礎は、教育であり、学習の重要性を話され、さらに、真剣に学び、学び続けることの重要性を、熱く話され、子供達から万雷の拍手を受けました。

彼らの日常会話は、フィリピン語です。公用語として英語が必要とされるという事情があるにしても、小学生の英語力は、相当なもので、日本の子供達との差はかなり大きいと思いました。そして、今や、英語は、世界の共通言語でもあります。世界へ出て行くのに必須の能力です。

また、今回の訪問でのガダルーペ・ロータリークラブとのやりとりでも、私たちの貧しい英語を痛感いたしました。日本の将来にとって、英語教育の重要性を再認識した訪問でした。



久々に会長の写真

お土産の  
ドライフルーツ

#### ■ニコニコ BOX

21名	26,000円
累計	565,000円
目標額	130万円
達成率	43.4%

#### ■今週のこぼ

セブ島支援、大変ご苦労様でした。

近江誠一

#### ■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	23名
出席率	65.7%
前回修正	85.75%

#### ■次回のプログラム

12月2日

この街学園による講演  
新世代活動担当例会



## ◇幹事報告◇

- 以下の文書を受領いたしました。
  - ①ウィークリー(諏訪 RC)を受領しました。
  - ②11/18 午後 7 時開催の「下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 30 周年に向けての会議」開催通知を受領しました。望月会員に当会代表として出席をお願い致しました。
  - ③県地方事務所より「諏訪湖アダプトプログラム継続意思確認書」を受領しました。社会奉仕委員会に検討をお願いし理事会にて協議致します。
  - ④国際ロータリー年次大会(来年 5 月開催)の参加旅行パンフレットを受領しました。国際奉仕委員会にお渡し致しましたので委員会にお問い合わせ下さい。
- 連絡事項
  - ①11/17 開催の県教育委員会指導者研修会に当会から外部講師として参加された会員達は無事に職務を遂行なされました。詳細は別記をご一読下さい。
  - ②5 日間のセブ島訪問団は訪問目的をほぼ果たし無事に帰国なされました。後日の詳細報告をお楽しみにお待ち下さい。
  - ③本日 18 日例会にて「奄美地方豪雨災害義捐金」の募金は締め切り募金額 17,671 円を第 2730 地区ガバナー事務所に送金致します。

## 1200回例会報告

記念すべき回数目の例会ですが 講師急病のため急きょ幹事による「下諏訪町工業の現状と工業振興への提言(案)」の説明が行われました。

諏訪地域全域で考えるべきことでありますが 行政体が分かれたままで施策が横並びで行われている現状を踏まえ 下諏訪町の枠内での状況報告と今後の提言説明がなされました。

企業数・生産額・就業人数とも10年間で半減した状況となっており 打開して行くために「ものづくり支援センター設立」を構想した経過説明がなされるとともに、高齢化が進み 海外生産にシフトしている背景から今後の道を検討しており 全会員にとって地域の現状を知る機会となりました。

スライドによる豊富な資料と図解による平易な解説は、製造業にかかわらないものにもこの地方の現状が良く理解でき、製造業に限定されない今後のあらゆる職業のあり方やネッ



トワークの在り方を示唆する有意義な例会となりました。

御子柴幹事ご苦勞様でした。正式にこのスライドが公表された後、許可を得てホームページに記載したいと思っています。

総合的な学習の時間  
コーディネーター養成講座に参加

教員などを対象に、学校として総合的な学習の時間に組織的に取り組むための企画・調整を担うコーディネーターの養成を行い、その成果の普及を図ることにより、総合的な学習の時間の一層の充実に資する、を趣旨として開催された養成講座は県内では今回5回目となっております。

この講座は文部科学省並びに長野県教育委員会主催によるもので、岩村、林、小林の3名が地域講師として参加しました。講座に参加した県内小中学校の教員は47名、講師として岡谷市西堀区のボランティア組織の3名と当クラブ3名が6グループの講師として分科会が行われました。

この養成講座は、上智大学総合人間科学部奈須正裕教授の「横断的・探究的な学習を展開するための教材化や単元展開の在り方」と題した講演の後、西堀地区の活動報告、諏訪湖ロータリー・クラブの活動報告が紹介された後に、分科会が行われました。私たちは、「ブナの植林」や「なぎがまの時間」活動について経緯やその内容を説明しながら、先生方の質疑に答える方法で進められました。

ロータリー活動にも触れ、地域の問題に関心を持ち解決に向け奉仕活動をしており、先生方の如何なる要望に対しても応えてくれる団体であると無責任な発言をしてまいりました。

僅かな時間でしたが、先生方の自信ない発言や社会性の乏しさを感じ、我々の時代の先生は頼り甲斐があり皆尊敬できる人ばかりであったことを改めて思い出した会議でありました。

岩村 亀男、小林 強、林 洋三



今月の結婚祝い